

三条市地域交通資源の有効活用に関する 調査業務について

三条市地域公共交通協議会

1 地域交通資源の有効活用に関する調査業務

1 趣旨

今年度、新潟県が、県内市町村との共同実施を予定していた地域の多様な資源を総動員し、利便性の高い地域公共交通体系の確立を支援するための『地域交通資源の有効活用に関する調査事業』（以下、本事業）について、県から当協議会に対して、事業の共同実施にかかる提案があったことから、その事業採択を受け、以下の委託事業を実施するもの

2 事業目的

- 今後の地域公共交通の見直しに当たっての基本方針案「最新技術の活用等による観光における交通機能の充実」（資料No.2参照）に基づき、今後、「下田地域における二次交通の充実」を図るには、本市における地域交通資源の実態や地域住民等のニーズを把握しつつ、多様な移動手段を包括的・総合的に有効活用する必要がある。
 - そのためには、下田地域における送迎バスを有する施設をはじめとした地域交通資源の有効活用に関する将来像及びその方向性並びにMaaSなどの新モビリティサービスを含めた新規の施策を展開するために必要な事項について、県事業を活用して共同で調査を実施することで、今後の施策の推進・事業展開に当たってより効果的・効率的に事業を実施することができると考えられる。
- ⇒ 以上の理由から、今年度、当協議会において、本事業を実施するもの

3 事業概要(案)

事業額 上限3,500千円（全額新潟県が負担）

(1) 業務名 『三条市地域交通資源の有効活用に関する調査業務委託』

(2) 業務内容

ア 現況等の調査、分析及び施策案の検討

(ア) 基本方針、目標の検討 (イ) 現況整理、課題設定 (ウ) 施策案の検討

イ 地域住民、事業者等への調査及び新モビリティサービスの先進事例調査

・上記(1)を行うに当たり、地域住民や事業者等の関係者に対し、移動手段の現況やニーズ等について、アンケート又は聞き取り調査を実施して補完する。

・施策を検討するために参考となる国土交通省「日本版MaaSの推進・支援事業」等の先進的な事業の事例収集を十分に行い、各地域で展開されているサービスの内容を把握した上で体系的に整理する。

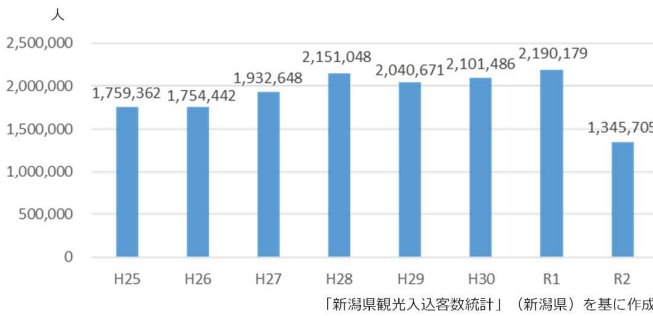
ウ 調査結果の取りまとめ

エ 業務遂行のための協議

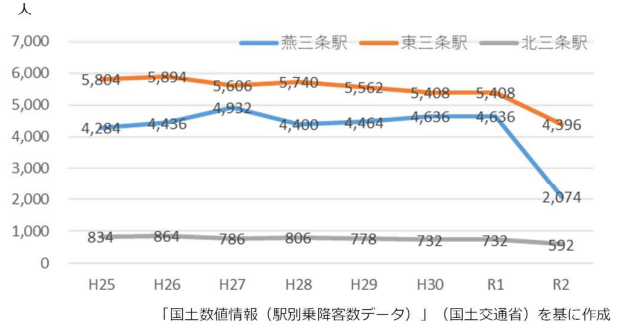
2 現状の整理 <地域拠点等の開発>

現状：地域拠点等の開発 <要因分析：観光面における移動手段の不足>

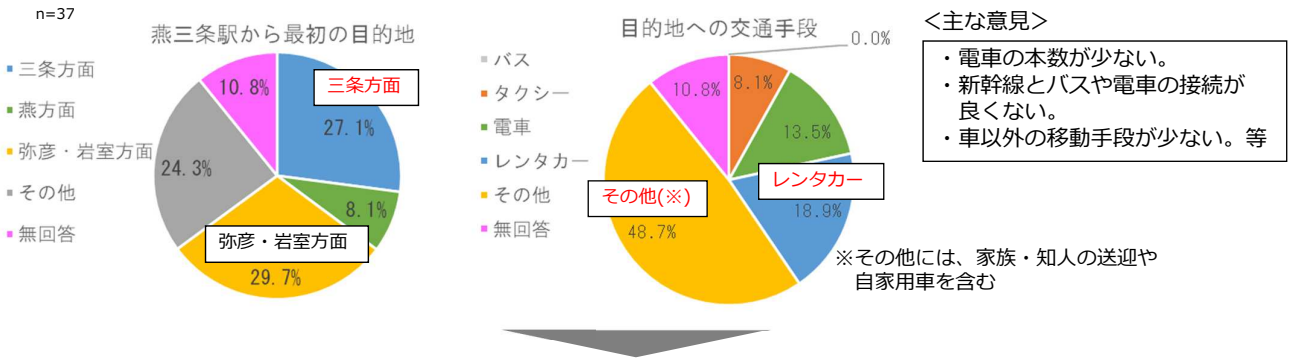
(1) 三条市の観光入込客数の推移



(2) 各駅の乗降客数(人/日)の推移



(3) 駅からの移動手段(燕三条駅からの交通手段アンケート(H29))



交通結節点(各駅)から市内観光拠点への移動手段の充実を図る必要がある

2 現状の整理 <地域拠点等の開発>

(1) 下田地域の現状：地域公共交通

現状①：10/1のダイヤ改正にて、八木ヶ鼻温泉線の内、**燕三条駅直通便が廃止**(東三条駅終点)
 ※燕三条ラインが東三条駅⇔燕三条駅、大学間を往復7本/日運行開始

現状②：福沢線は**朝1本、夕2本のみ運行で頻度が低い**

現状③：デマンド交通によって路線バスが不便な地域はカバーされているが**行政負担額が高額**

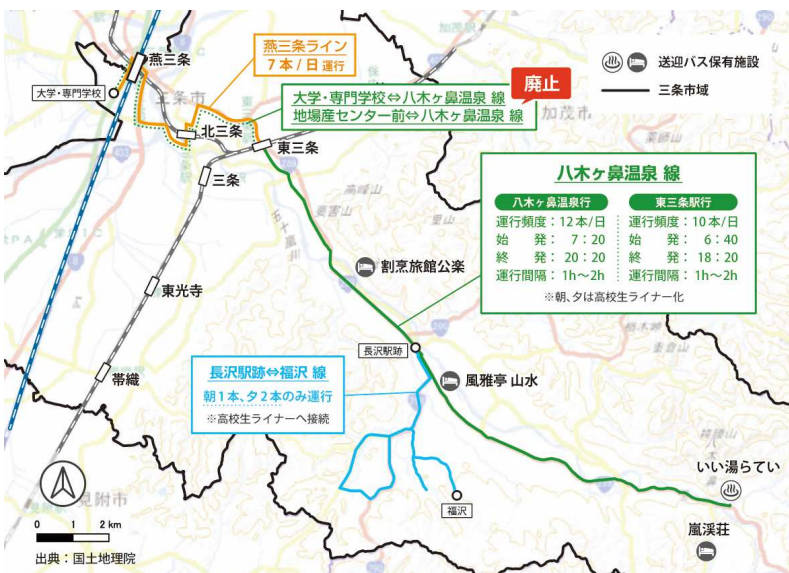


表 下田地域の人口比率とデマンド交通行政負担額比率の比較

	人口	デマンド交通行政負担額 [千円]
下田地域	8,755	11,342
三条市全体	96,517	35,208
三条市全体比	9%	32%

三条市全体に対する下田地域の人口比と比較し、**デマンド交通の行政負担額の比率が大きい**

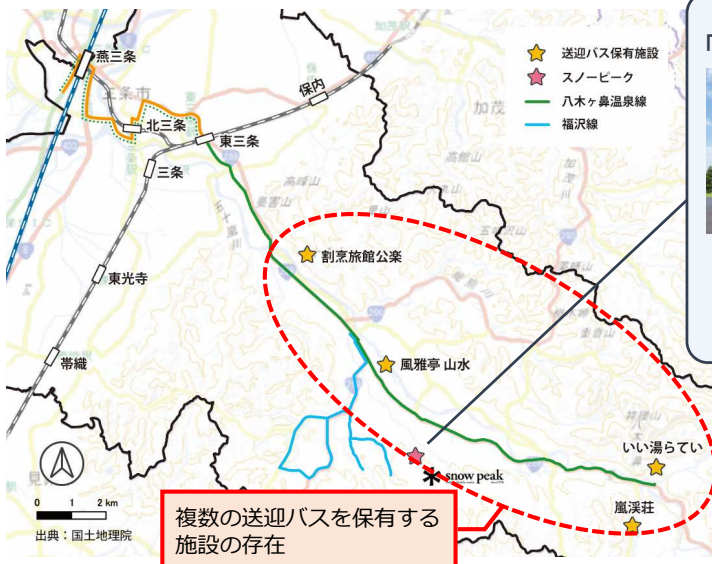
2 現状の整理 <地域拠点等の開発>

(2) 下田地域の現状：地域拠点等の開発

現状④：スノーピークの複合型リゾート施設(スパ)開業(令和4年4月)により、新たな利用者層が訪れている。

→手ぶらでのキャンプ利用者や、商談・視察目的での訪問者、スパのみの利用者も増えており、その中には
レンタカーを利用している者も多く、公共交通機関整備を求める声が増えている。

現状⑤：同地区には**送迎バスサービスを有している施設**があり、これらの資源活用も考えられる。



スノーピーク複合型リゾート

「Snow Peak FIELD SUITE SPA HEADQUARTERS」



キャンプ利用者：約15,000人/年
 スパ利用者：令和4年8月約7,000人
 9月約5,000人
 移動手段：いずれも9割が車（内数にレンタカー含む）

■現在

路線バス

一日10往復

デマンド交通

停留所約170か所

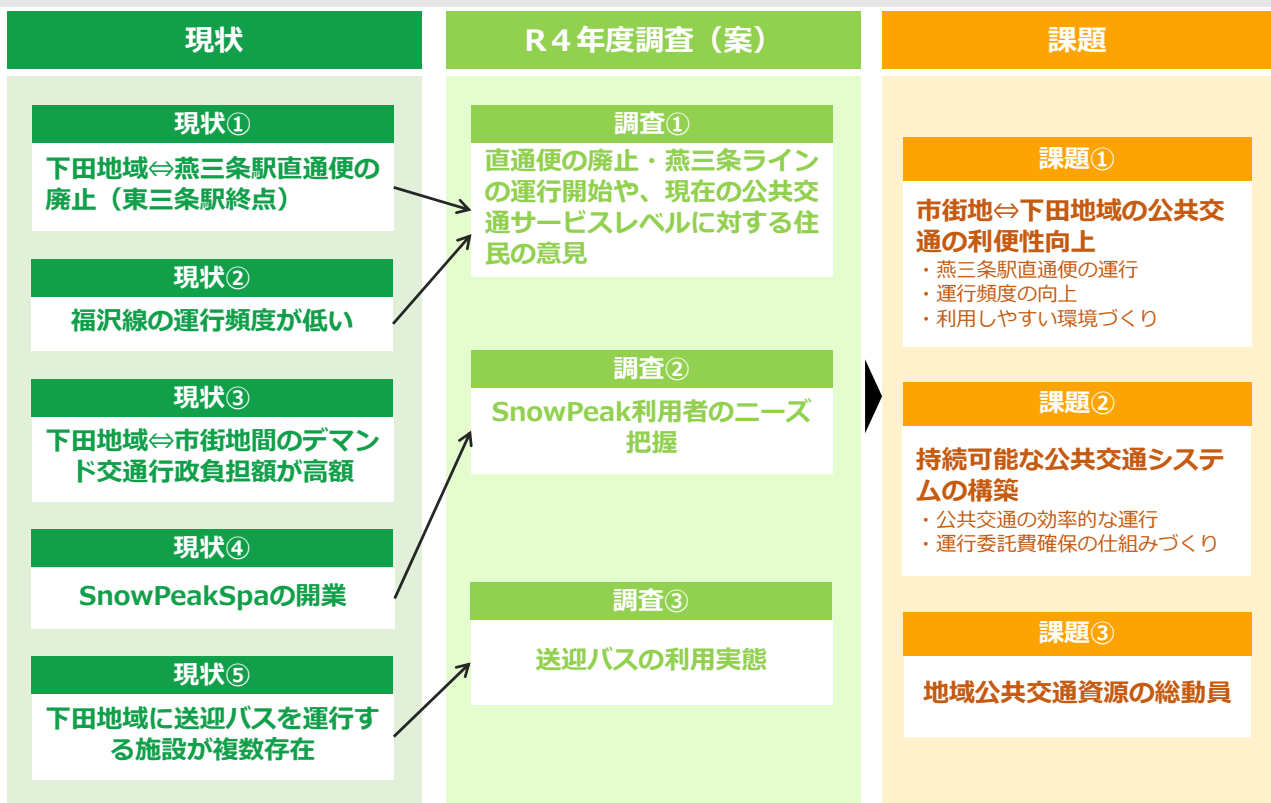
⇒いずれも、スノーピーク（最寄り含む）
 に停留所はなし

4

2 現状の整理 <地域拠点等の開発>

現時点での整理であり、今後、調査事業において体系化

(3) 下田地域公共交通の現状・R4年度調査項目・課題の整理

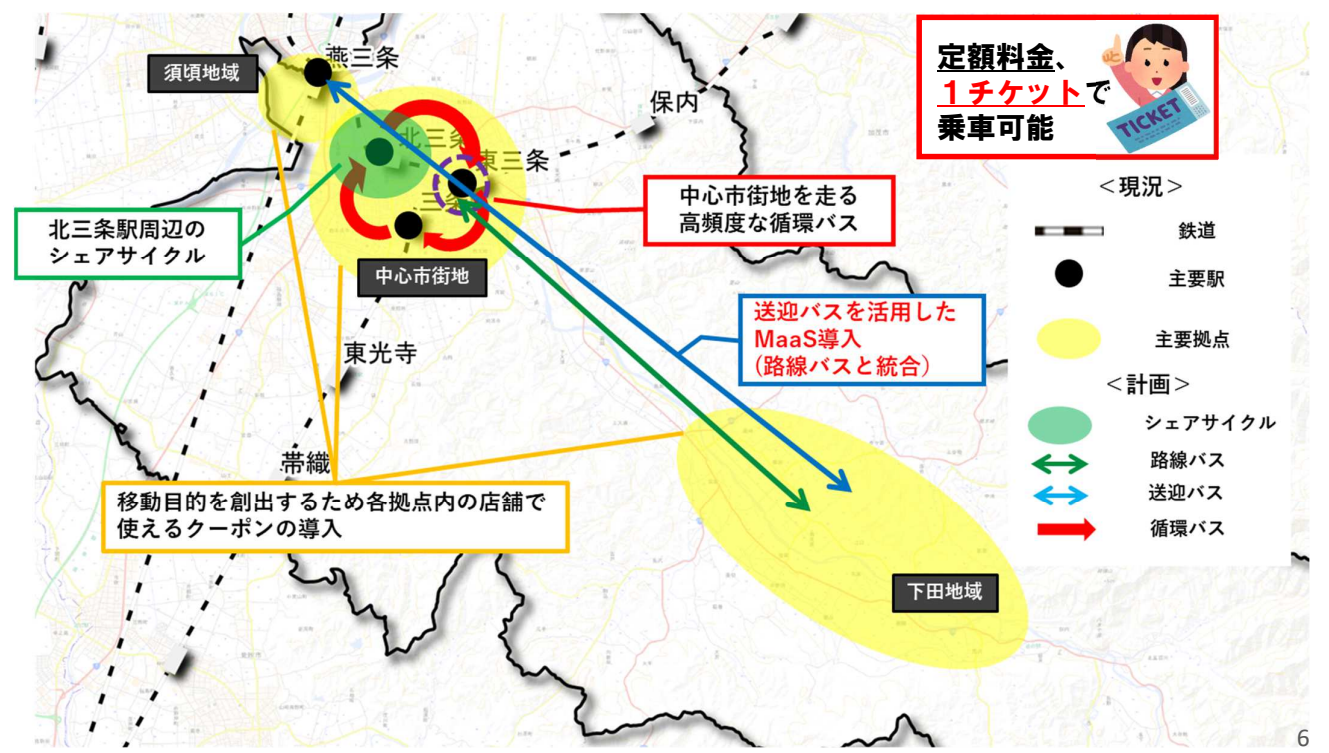


5

3 将来イメージ案「送迎バスを活用したMaaS導入の考え方」

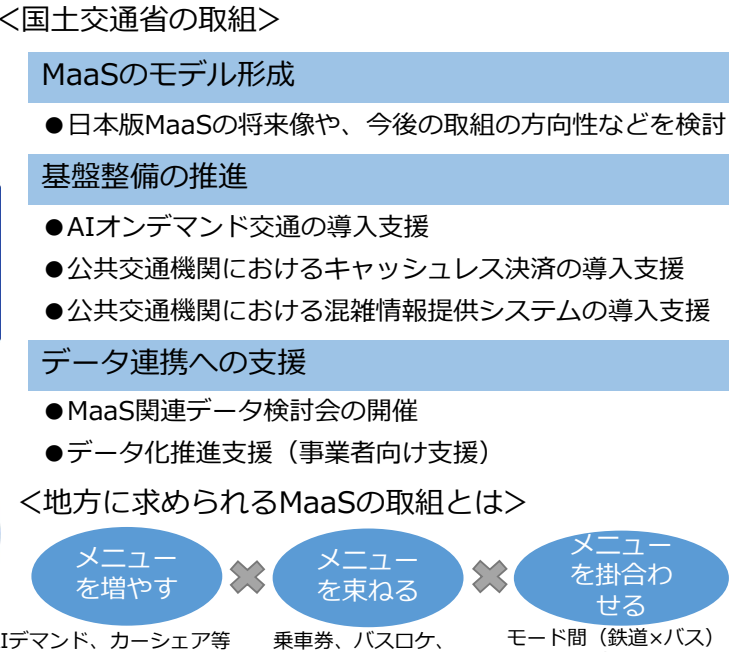
検討中

- 送迎バスを活用したMaaSを導入し、**下田地域の公共交通の運行頻度向上**を図る
- 複数の公共交通を1チケットで乗車可能にし、**シームレスな移動環境を構築**する
- 各拠点内の店舗で使えるクーポンを導入し、**移動目的を創出**する



4 【参考】MaaSとは

MaaS (マース : Mobility as a Service) とは、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外サービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもの。(国土交通省HP引用)



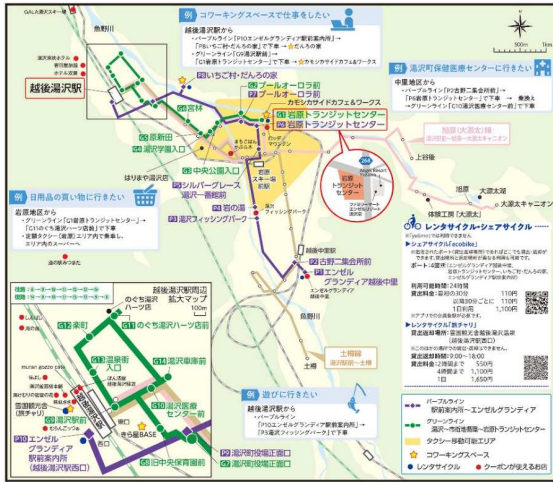
4 【参考】MaaSとは

<事例> 湯沢版MaaS (あくまで参考事例を紹介するもので、同様の事業を当市でも行うという趣旨ではありません)

新型コロナウイルス感染症の影響により、ライフスタイルや働き方が多様化する中において、地域住民や観光客、ビジネス利用者（ワーケーション含む）などが、車がなくても自由に移動できる環境を整備し、持続可能な暮らしやまちづくりの構築を図ることを目的として、移動環境の充実に向けた実証事業を湯沢町において開始（期間：令和3年7月16日～令和3年9月12日）

<定額チケット「yuûmo」のバス・タクシー利用エリア>

出典：新潟県報道資料



【事業概要】

■乗車チケットのサブスクリプション

●バス

・複数事業者が運行するシャトルバス・路線バスとホテル送迎バスを全国初期間定額料金サービス（サブスクリプション）として導入。 ※2日券・5日券・1か月券の3種のチケット「yuûmo」（ユーモ）を造成。

●タクシー

・一括定額タクシー運賃…タクシーの複数回の利用分の運賃を一括して支払う制度
 ・バスでは対応できないきめ細やかな移動を実現するため、**県内初試験導入。**

●共通

・地域内での消費拡大や移動促進を図るため、地元宿泊事業者や飲食店等と連携し、チケットは地域で使える割引クーポンとして利用可能。

■岩原地区にトランジットセンター（交通結節点）を新設

・バス路線が交わる岩原に交通結節点（トランジットセンター）を新規設置。
 ・バス同士やバスと定額タクシーとの乗換えなどを、スムーズに行うことが可能に。
 ・待合空間は、“待つ＝楽しむ”と感じてもらえるような空間創出を工夫。

【取組に当たってのポイント】既存の輸送資源の有効活用

- ・これまで、ホテル等利用者の送迎として、越後湯沢駅前～ホテル間を株式会社エンゼル観光が貸切バス事業で運行。貸切事業につき、利用者は、ホテル等利用者に限定。
- ・このホテル送迎バスを、有償で誰でもご利用できるようにする目的で、株式会社エンゼル観光の協力のもと、乗合バス化する実証運行を実施。
- ・ホテル送迎バスを地域の足としての利活用は、**県内初**の取組。